

盛岡三高数学科通信 How do you solve? How do you teach?

第15号

発行責任者
盛岡第三高等学校
下町壽男

東北大会に行ってきました

11月14日・15日、第62回東北地区算数・数学教育研究大会に参加してきました。

初日は、宇宙航空研究開発機構教授、あの「はやぶさ」の川口淳一郎先生の熱い講演でした。

川口先生の一つ一つの言葉から、科学への愛が伝わってきました。そしてそれは、地球への愛、人間への愛とも感じられました。

先生は科学者としての立場から震災に心を痛めておられました。それまで「あきらめない心・最後まで頑張る」というスローガンだったのが、「明るい展望を持つこと」へと変わったというお話が印象的でした。

ユーモアも交えて、爆笑ありの講演でしたが、「寝るためには体力がいる。年老いていくと寝るための体力がなくなる。その代わり歳をとれば、四六時中眠くなり、最後は永遠に眠る」というジョークには、自分も着実にそれに向かっていくだけに笑えませんでした。

＜夜の青森市内＞



青森の町並みには幾何学的なオブジェが多くてとても楽しい。雪が降るから、錐体や球体が多いのだろうか。

全体会場で、明日研究発表する福岡高校の佐藤宣昌先生と盛岡商業高校の藤澤さやか先生の姿を発見！2人を誘って青森の夜を楽しみました。



大戸屋の前にあったイルミネーション



ホタテ三昧の楽しい夜でした
写真右：表面張力の実験？

翌日は、青森高校で数学教育研究大会の公開授業と分科会が行われました。公開授業では、青森東高校のベクトルの授業を参観しました。

「任意の四面体の頂点から対応する面の重心に引いた線分は1点で交わり、互いに3:1に内分する」という事実を、グループでの数学的な活動を通して納得するという授業でした。

ここで、下写真の彼のグループが早々と作成。4本の糸は確かに1点で交わっています！



作ってくれた彼(左写真)に、「写真を撮ってブログに載せていい？」と聞いたところ爽やかに快諾してくれました。佐藤良君と名前も教えてくれました。ありがとうございます。

証明は行っていないが、「全員が異なる四面体で実践」→「同じことがいえた」→「性質として納得」という帰納的な推論を経て証明に進んでいくことで、概念が確かなものになっていくと思われま。

なお、この授業は、三角形の重心の性質のアナロジーです。実は今回の大会に岩手から発表者として参加した藤澤さやかさんは、三角形の重心の性質を同様のアプローチで行っています。

分科会では、藤澤先生を含め3人のレポートに助言をさせていただきました。それについては、機会があれば取り上げたいと思います。

尚、3本のレポートについて、事前に上野先生に見てもらったところ、適切な感想をいただきました。助言にあたってとても参考になりました。ありがとうございます。藤澤先生には、上野先生の感想を綴ったレジメを差し上げました。先生はとても感謝しておりました。

文好先生ありがとうございました



本日をもって、千葉文好先生が退任されます。

文好先生は、私が10年前に本校に勤務していたときにも一緒にさせていただきました。

皆さん誰もが思っていることですが、文好先生は、温厚で、

誰に対しても優しく、人を立てて下さる、利他の心を持った先生です

そして、人に対する優しさとともに、数学への深い造詣と愛情があり、生徒への指導力も抜群の先生でした。

バトミントンの指導者でもあり、10年前の当時は、生徒に負けないプレーをしていたことが印象に残っています。

先生は、三高の近くにお住まいですので、機会があれば、是非立ち寄って、生徒の様子や、我々の様子を見に遊びに来ていただきたいと思います。

三高の数学科は新進気鋭の若者たちの集団です。彼らは、その若さで、きっと生徒を引き上げてくれるでしょう。しかし、一方で、若さゆえの暴走や、衝突などもあると思われま。そんなとき、彼らは文好先生の存在の大きさを感じると思われま。これから我々は、心に「文好先生」の姿を刻み付けて、数学教師としての生き方を見失わないよう、日々励んでいきたいと思われま。

文好先生の今後のご健康とご多幸をお祈りいたします。ありがとうございました。

前号のパズル「思考の知恵の輪」の解答

